

2022 公立入試問題・英語 入試分析

【出題傾向】

例年同様、リスニング・対話文・英作文・長文問題の出題でした。難易度は対話文、英作文がやや難度の高い問題が出題されましたが、長文読解問題は平易でした。

【問題分析】

対話文では新学習指導要領で追加された仮定法が1問出題されました。また、間接疑問文の並べ替え問題は、むぎの過去問対策指導の中で何度も練習をしたように考えればできる問題でした。英作文は昨年同様、会話の流れが自然になるように自分で平易な英文を作文する問題でした。基本英作文を何度も練習してきた成果が出やすい問題でした。また、長文読解問題の語形変化で「stop ~ing」が出題されました。むぎ流の“覚え方”が的中しました。日本語で答える問題は、「悲しいこと」= sad、「分かったこと」= found など、鍵となる単語を見つけることができれば、答えやすい問題でした。むぎの冬期講習内容の読解方法に基づいて解いていくことが、正解を導き出す最良の解法でした。

【今後の対策】

リスニング問題は昨年同様の出題形式でしたが、大学入試改革を見据えてリスニング問題が増える可能性があります。習得語彙量を増やし、ネイティブ英語を聞き取る英語耳をしっかりと作るためにも、速読聴英語、英会話での練習は必須です。読解問題は、数多くの対話文、長文問題を短時間で読む速読力が求められます。また、英作文対策として基本文マスターが必須です。書き取りによる単語力強化、基本英作文練習を強化する必要があります。